

複合的資源管理型漁業促進対策事業調査

イカナゴ（津軽海峡）

（抄録）

伊藤欣吾

目 的

三厩村・今別町・平館村・蟹田町・蓬田村を対象地区とし、イカナゴの資源の維持と適正な利用を図るため、資源状態や生態を調査し資源管理型漁業への転換を促進する。

産卵状況調査

2000年11月～2001年3月に平館村と佐井村の地先において、定置網やタモ網によりイカナゴの採集を漁業者に依頼したが、イカナゴは採集されなかった。1997年以降に得られた冬期の生物測定データから、各年の産卵期間と産卵群の体長組成をとりまとめた。

稚仔分布調査

津軽海峡西部～陸奥湾湾口海域において、2001年2～4月に毎月1回、新型稚魚ネットの水平10分曳を行いイカナゴ稚仔を採集した。1999年を除くと1994～2000年における3月のイカナゴ稚仔分布密度と漁獲量との間に、相関係数0.96の極めて強い正の相関が認められたが、2001年はこの関係に当てはまらなかった。

漁獲量調査

陸奥湾湾口海域の7漁業協同組合におけるイカナゴの漁獲統計資料を解析した。当海域における2001年のイカナゴ当歳魚の漁獲量（生換算重量）は2,372トンで前年比100%、漁獲金額は2億3760万円で前年比77%に減少した。2001年は、1996年以降最も漁期が早く、最も単価が安かった。また、漁獲個体数を推定した。

海洋環境調査

陸奥湾湾口海域における水温データを解析した。当海域における1～6月の海面水温はほぼ平年並みに推移した。底層水温は、7℃以上を保ち卵発生に適していた。

夏期の分布調査

2001年8月28日～9月3日に津軽海峡海域において、試験船青鵬丸のオッターロールによる海底曳を行った。イカナゴは夏期に大畑町沖水深200mに分布していることが明らかになった。オッターロールが夏期にイカナゴを採集する漁具として有効であることが示された。

発表誌：平成13年度複合的資源管理型漁業促進対策事業報告書、平成14年、青森県